

第1回 神戸2025ビジョン策定に向けたワーキンググループ  
（「若者が選ぶまち」グループ）

－議事要旨－

日時：令和2年8月5日（水）10:00～12:00

場所：三宮研修センター会議室 8階801号室

委員：

氏名	役職
織田澤 利守	神戸大学大学院工学研究科 准教授
大仁 恵美子	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部 部長代理
田邊 昭博	ヤフー株式会社
西岡 幸子	こ・ねくすと 代表

（敬称略、五十音順）

1. 神戸2025ビジョンの全体構成について

＜事務局＞

－資料3～7に基づき説明－

2. 質疑応答及び意見

＜委員＞

- ・大前提の確認だが、若者とは何歳まで、どのようなイメージなのかという認識を合わせたい。

＜事務局＞

- ・40歳ぐらいまでという認識である。

＜委員＞

- ・40歳ぐらいまでといっても色々である。ファミリー層（小さい子どもがいるくらい）という認識なのか。

### <事務局>

- ・ファミリー層もだが、目標として掲げているのは、若い人に来てもらって、教育、子育てをしていただく、というのをテーマとしている。単身も、大学が多くたくさんの方がいるが、どんどん東京や大阪市に出てしまうので、なんとか神戸で就職してもらいたい。そう意味では単身も含まれる。
- ・アジアのシリコンバレーと言われる、深圳市の平均年齢は30歳で、人口は東京より多く1,500万人くらいあり、活気がある。国内外からたくさんの方が集まり、起業し、活躍している。イメージとしてはそういったイメージである。

### 3. 神戸 2025 ビジョンに盛り込むべき施策について

#### <事務局>

－資料8に基づき説明－

### 4. 質疑応答及び意見

#### <委員>

- ・1, 2, 3に関連して、授業で神戸市のこれまでの都市計画の話、建設局長にお願いして、お話ししていただいた。専門ではない学生にリベラルアーツ（教養教育）として、法学部、経済学部、工学部でも普段まちと関わりのない研究をしているような学生に対して講義をしてもらった。その学生からの授業に対するリプライもらったので持ってきた。
- ・私がピックアップした範囲なので、全てをご紹介するわけではないが、やはり雇用が重要であるということが書かれている。これについては私もずっと考えていることで、コロナで風向きが変わりそうな微妙なタイミングであるので、委員の皆さんに伺いたいと思っていることである。
- ・具体的には、リモートワーク等で、職場に5日間通わなくてもよくなれば、神戸の地下鉄沿線は居住地としては検討に値する場所かと思う。この先元に戻ってしまうのか、変わっていくのかよみにくいところではあり、超長期的には変わっていくと思うが、このビジョンの中でどのくらいそういったことを打ち出すのかということを含めて、新しく盛り込むことのできるテーマだと思っている。駅前のサービスの高質化としては、図書館の整備を検討されているが、そこにコワーキングスペースを盛り込むなどしてはどうか。
- ・2番目に関係することとしては、三宮の再開発に期待している学生は多い。その中で魅力的な場所はあるがアクセスがそれぞれ悪いということで、MaaSなど間をつなぐ交通サービスへの期待が高い。先ほどキーワードとして「変化」「成長」という話があったが、三宮の街づくりそのものがチャレンジングなので、それに合わせてどんどんやっていくべきという意見があった。

- ・結婚や出産ということに関しては、子育てをしている立場から言うと、コロナの影響で場所性が無くなっている。大学はオンラインで授業をしており、対面でしないととなると、何も私でなくても世界のトップ研究者でもよいのではないかという話もあり、これもどうなるかわからないが、学校教育の在り方も、現場の先生は何をすべきかという話があり、その辺は少し検討して、是非いいところ取りをして、山中先生に理科を教えてもらうなど、好きになってもらうことが重要で、そのサポートを現場の先生がするといった在り方を、パイロットケースとして実践してみるというのも神戸らしい。それこそが魅力となるのではないか。

### <委員>

- ・神戸市内の企業の競争力の向上に関しては、人材不足はどの会社も言っていることで、どうしても東京に行ってしまう。これは私自身の経験としても、周囲の友達もそうであった。市内には大学も多いが、学生時代には働くイメージが湧いていなかった。なんとなく「大企業がいい」「東京がいい」という感じで選んでいた。
- ・今は、若者の価値観が多様化していて、ライフを重視する。そういった中で自分が本当に何をしたいのかというのを、学生時代からちゃんと考えられる機会を、大学と連携してインターンの助成に取り組んでみるとか、新しい働き方の提案として、コロナのこともあるし、ずっと会社にいなくてもできるということ、企業に対する啓蒙もだが、学生さんに対してもモデルを示していく取組みをしてはどうか。
- ・あとは、ITの整備というところ。神戸市もクリエイティブ、デザインなど先進的な取組みをしているが、昔からある企業ではそういったものがあまり浸透していない、やらないといけないができていないところがあるので、インフラとして神戸市が整備していく部分もあると思うし、個別の企業に関しても他都市対比で、すごくやっていることをアピールも含めてやっていただくのが良いのではないか。
- ・市外からどうやって人を呼んでくるか、仕事を呼んでくるかということもあると思うが、企業からは自治体は敷居が高く、どうアプローチすればよいかかわからないという話をよく聞く。行政の課題解決としては重要だと思う。
- ・大企業が実証実験をしたくてもフィールドがない。個人的な繋がりで行かれることもあるが、神戸市とならばできるというような全国的なアピールをしてはどうか。ビッグデータなどもそうだが、このようなデータが欲しいという企業もあるので、神戸市に言えば何か出てくるかもしれないというようにできないか。
- ・働く側としては、市内で十分仕事ができるようにする整備が必要。先ほどコロナでこれからどうなるかということも言われたが、日本人は、週に一回ぐらいは顔を出さなくてはという風潮があるように感じているので、出社ゼロということにはならないと思うが、週4日は家で仕事をするというようなことは十分あると思う。そういった意味では東京などにもアクセスしやすいが、神戸でやりたいこと、趣味も充実させて、

いい家に住んでということもできるような環境をつくっていく。

- ・神戸の中小企業が東京で、共同で利用できるようなオフィスを神戸市が整備することや、どこに住んでいても東京・大阪に出やすい、アクセスしやすいような交通網の見直しが必要なのではないか。
- ・私は今子育て中だが、周りには単身赴任の人が多し。奥さん子どもさんを引き留められるようなものがあれば、旦那さんが出稼ぎでもよいのではないかと感じる。子育てしている人へのメリットの打ち出し方を考える必要がある。子育て中のお母さんはコミュニティを欲している。コロナで大変な時期であるからこそ人と人との繋がりというところで、逃がさないようにする、ここに住んでいた方がよいというようにする。コロナで特別保育になったり、警報時の保育のバックアッププランみたいなものを自分で用意するのではなくメニューとしてあれば両親としてはとても安心できる、神戸市ならではの取り組みになると思う。

### <委員>

- ・私はずっと西宮で大学も地元であったので、神戸は基本的に遊びに来る街であった。震災以前、以後も見ているが、子どものころから風景が何も変わっていない。良いところかもしれないが、今の場合メリットではない。就職で東京に行ったが、神戸には仕事がない。リーマンショック後に神戸に戻ろうと思ったが、Web系はほとんど存在せず、あったとしても給与体系などが都心と比べて見劣りするという事実があった。先ほどデータでも見せていただいたとおりである。
- ・一方、Web系の企業では完全に在宅になってしまっていて、一步も外に出ない日々を過ごして気が滅入っている、そういったときに出てくるには神戸は非常に魅力的な街である。もし、大阪でやる会議なら家でやっただろう。そういった意味で流れは変わってきている。周りでは引っ越そうかという話も出てきている。そういった人たちが帰って来やすい施策を検討いただけるとよい。
- ・Web系の話になるが、良い椅子と良いネット環境があればなんでもできる。そういった補助が会社の中でも一律に出ない所もあるようなので、神戸に帰ってくればそういったことも支援するというようなことを打ち出して、出ていってしまった子を取り戻すみたいなものを、他の都市に先駆けて訴えられるとよい。
- ・ヤフーと神戸市は企業連携協定を結んでおり、定期的に神戸市の人流のレポートを提供している。それを見ると、コロナ以前の傾向になるが、週1回、もしくは月1回くらい神戸市外から来る方が多い。他県からだど岡山・広島が国内では多かったので丁度いい距離感にあるのではないか。
- ・先ほど話があったが、神戸は交通アクセスが東西しかない。他へ引っ越しても三宮まで出てきてなんとかしないとイケない。三田周りで尼崎の方から行くのも時間がかかる。働きに行くという視点では住みようがない。アメリカのシリコンバレーは周りに

何もないが、サンフランシスコに電車で一本のアクセスであり、GAF A系企業は金を出して、サンフランシスコに住ませている。神戸も神戸から行けるとどこに何か大きな集積地をつくれればできれば神戸が魅力的な街になり、そこから通うという形にできるのではないか。今のままでは大阪に吸われるイメージがある。

- ・これからもどうしても東京に出ていくので、出ていった子たちが、帰ってくる人を優遇することができればいいのではと考えている。
- ・あとは、神戸の街は降りてから何もない。神戸に来た感をうまく伝えられるようにするのが駅前再開発だと思うが、そういったものもあると良い。

### <委員>

- ・共働き、子育て世帯（40代・ファミリー層）の立場から話させていただく。
- ・自身の経験から、主に3つ悩みがあると思う。1つ目は地域との繋がりの欠如である。子どもを産んで復帰してとなると、家→保育園→会社→保育園→家という形で、地元・地域との繋がりはほとんどなかった。育休中は家にいるが、子育て広場などに行くと少し違うように感じたし、そこで繋がりができても、復帰をすとなかなか続かなかった。保育園も迎えに行くだけなので会う人、会わない人もいてバタバタしていて、地域との繋がりはなかった。
- ・2つ目は、神戸だけのことではないと思うが、身近なロールモデルの欠如である。子育てしながらキャリアを築いていくというモデルがなかなかない。ネットで調べても東京ばかりで、神戸でも大阪でもないことから自分には無理なのかと思うこともあった。身近なロールモデルがないことで継続が難しいのではないか。
- ・3つ目は思いを共有する場がないということ。保育園で子どもが泣いてしまった、熱が出て仕事に支障がでた、家事がまわらないなど、そういう思いなど共有する場がない。どこの保育園がいい、どこの学校がいい、子育てしながらキャリアを築いていくための情報など。この3つが大きな悩みではないかと思う。
- ・この3つを踏まえて行政で取り組んでいけることのアイディアとして、1つ目は「企業・業種を超えた交流機会の創出」である。周りやコミュニティに参加されている方の話を聞くと、幼少期から神戸で、大学や就職で一度出て戻ってこられる方はすごく多い。業種が違うというのが1つ。阪神間・播磨地域に勤めていても、神戸が好きで神戸に住んでいる人たくさんおられる。そういった神戸在住の人・企業の交流が神戸市主導でできればよい。身近に住む違う業種の方と繋がる場にもなるのではないか。これは対面でもオンラインでもどちらでもいいが、そういった場は行政だからこそできることではないか。あと、育休ママ向けの交流の場ができればよい。単なるサロンではなく、育休中のキャリアの継続の仕方などがあれば神戸はそういうことをサポートしているというイメージになるのではないか。育休前・後、入園・入学前はキャリアを継続する中での大きな山であるので、そういったときに医師や学校、学童の

先生などから情報をもたらえる場があると神戸の質も上がるし、普段会えない方との繋がりができ、近くの人との情報共有やお迎えを代わりに行ってもらうといった繋がりができてくるのではないか。これが先ほどの課題の1番目、3番目に繋がってくると思う。

- ・2つ目は、神戸で活躍されている若者、そういった方をサポートしている家族などを紹介、ロールモデルの発信を、神戸だからこんなことができましたというようにすると、神戸の価値が上がってくるのではないか。神戸だから働いて育てていけるというイメージづくりにも繋がる。先ほどのロールモデルの欠如に繋がる。「こ・ねくすと」の話が東京の育休ママに話したところ、東京にはないということであったので、そういったことで神戸を打ち出していけるのは面白いのではないか。
- ・3つ目としては、図書館にコワーキングスペースがあったらというのと同じであるが、コロナで一番大変だったのは、子連れ在宅勤務であった。仕事もしないといけないが、家に子どもがいるので集中できない。親も子もストレスになったというのは神戸だけでなく全国的にあった。これからテレワークは定着していくだろうが、子連れで行けるコワーキングスペース。学童・保育スペースがあれば一緒に行って違うところでじかんを過ごすような場を、神戸市がやれば、ファミリー層をサポートしているアピールになる。そこでも神戸市に住んでいる家族との繋がり、子ども同士の繋がりも生まれる。
- ・教育については、全てをオンラインにする必要はないが、もっと積極的に進めてほしい。5月の休校中にどっさり小・中学校から宿題が出され、学習ツールがインターネットで見られたが、これがインターネットなのかなというのが正直なところであった。コロナ以外でも警報などいろんなことが起きるので、例えば、月一回でもオンラインの日をつくるなどの取り組みを進めると、今後コロナのようなことがあってもどっさり宿題を出すだけでなく、効果的なことができるのではないか。
- ・また、今は不登校の子が多く、クラスに3人とかいるので、それだけで1クラスできるのではないかと思うくらいである。理由はいろいろだが、オンラインなら直接会わずに済むので、それが不登校の子の学びに対するハードルを下げられるのではないかと感じた。

## <委員>

- ・子育てについて、兵庫県に住んでいる人の子育て検索数の上位ランキングを見ることができるが、「兵庫子育て支援パスポート」というのが上位にくる。あとは、「子育て」「疲れた」「イライラ」など並んでくるのは全国同じ傾向にある。ただ、都市名と子育てがセットで出てくるのは、明石と加古川である。いろいろと各自治体で取り組んでいるが、周りから明石は充実しているらしいというのは聞こえてくる。神戸でも似たようなことはやっているが伝わってこないのか、広報的なところを何とかできれ

ばいいと思う。

#### <委員>

- ・神戸に住んでいたが、明石は保育園が入りやすいなどの理由で、明石に転出した友人は何人かいる。明石と同じことやってもユニークさは出ないので、神戸らしい違う形であらわすことを考えた方が良い。

#### <委員>

- ・明石に引っ越した友人は、二人目が無料になるなど金銭的なところで引っ越しされていて、それが本当に良いのかは考えなければいけない。それで小さい子はいて行政のお金を使うけれども大人になったらいなくなるというのは最悪だと思う。お金で誘うのではなく、共働きの家庭は増えているので、金銭的なところ以外のコンテンツ、身近な例では、習い事は働きながらどうすればいいのかということ。家に居れば送り迎えもできるが、平日の昼間にやっているようなところに代わりに連れて行ってくれる人や、神戸市に居れば、子どもの教育上で、お金ではないことを神戸市が支援してくれるようなもの。プログラミングなど言われていると思うが、漠然とやらせたいなど思っているもできないことをラインナップするとよいのではないか。

#### <委員>

- ・明石はなぜあんなに有名になったのか。最初はなんだったのかわからないが、気が付いたら子育ての良い町という評価が固まっていた。それはとても凄いことでそれによってまずそこに住んでみる事ができる。まず住ませないと話にならない。今は神戸に住む入り口的なきっかけが弱い。是が非でも神戸に住まなければならないというものが何もないのではないか。呼び水になる魅力を発信することが必要。
- ・西宮の人間からすると、西宮でよいと思うし、子どもができれば明石に引っ越してもよいと思うくらいのメリットがある。その何かが神戸を身近に感じているがゆえにわからないところもあるのではないか。

#### <委員>

- ・私自身としては明石に人が集まっていることと、子育てとの因果関係について、それが主要因になっているということについては否定的に感じている。それはまず、大阪を中心とした経済圏の中で交通の便が相対的に良いということ。マスとしては西区から移っている。西区もいわゆる西神と旧区があり、旧区部分は交通の便が悪く、かつ生活圏（銀行など）が西区ではなく、もともと何かあれば明石に行くという明石経済圏の人たちが明石に移住している。子育ての競争的に政策を競合するのは効果がないと思う。西神と引っ張り合っているところがあるので西神中央を充実させることが対

明石の施策として良い。ただし大阪への交通の便がいいのは明石である。

- ・ただ結構な割合で東灘区から明石に移住する人も出てきている。それはイメージが出来上がってきて、候補に挙がりやすいからではないか。須磨や月見山のブランディングすることが対明石については良いと思う。あの辺はスーパーがないとも聞かし、山が近く土地がないということもあるが、そういった観点もあるのではないか。

#### <委員>

- ・昔は、垂水や須磨の人を長田が吸っていた。神戸の西側に住む人を長田と明石が分け合っていたが、長田が無くなってしまったので西に流れているのではないか。
- ・最近の防災の観点でも入るが、兵庫の人は海が見えるところに憧れを持つが、六甲山系は花崗岩でもろく土砂崩れの心配がある。残された土地は山の上にしかなないので、そこに住めるのかということもあるのではないか。

#### <委員>

- ・そういった土砂の災害圏地域は、都市をコンパクト化しようという、コンパクト&ネットワークという立地適正化の政策があるが、神戸ではどこに集めるかの検討が必要である。
- ・西区・北区は一定程度良好な住宅地があるが、なかなか若い人が入っていけないため、三田市などの大阪経済圏に流れてしまう。その代謝がうまく回らない原因としては習い事サービスがないということがある。若い人が住むと習い事のバラエティが増えるが、既存住宅地で若い人と年寄りが混在していると、年寄り向けのデイケアサービスが主流サービスになってしまうそこを構造的にうまくサポートしないといけない。混在することは地域として良いことで良質な住宅地はたくさんあるが、そこから人が欠けていっているということは、焼き畑農業的なことが行われているということである。新築の助成をやめて、リノベーション支援にしてはどうか。

#### <委員>

- ・習い事の話でいうと、学童保育が関東、首都圏では民間が多い。そこでは習字や英語など様々なメニューが選べる。神戸市で調べたところ、東の方はそういったものが多いが、西の方では少なかった。私が垂水に住んでいたころゼロだったがこの4月に2つくらいできた。そういった学童は気象警報が出ても見してくれるし、大人との交流のあるところもある。
- ・明石がどうかは知らないが、そういったことを半官半民などで充実させていくと、習い事といったことに関しても一つの解決策になるのではないか。私の時は学童が7時までだったので電車が遅れると走って行って怒られることがあった。

### <委員>

- ・学園都市にはYMCAの学童があってお世話になったが、学童からそこでやる英会話・プールなどにいった。それはあまり一般的なことではないのか。

### <委員>

- ・地下鉄沿線は教育熱心の人が多く英語の学童などもある。垂水の辺りは昔からの学校の中での学童や、児童館がやる学童であった。それもありだと思いが選択肢が多いのは判断材料になってくるのではないか。

### <事務局>

- ・感染症や災害の話も一部出たが、施策の柱「④災害や感染症等を踏まえた社会システムの構築」という観点ではどのような意見があるか。

### <委員>

- ・感染症の対策では電車等での移動を極力減らすしかない。神戸ではポートアイランドに大きな病院があるが、そこへのアクセスがポートライナーしかなく朝のラッシュは山手線レベルである。車で行きやすいとかバスなどの交通手段も必要かと思う。
- ・また、地震の事もあるが埋め立て地でいいのかという思いもある。市民の安心としては、何かあってもここに行けば大丈夫という頼れる砦があればよいと思う。

### <事務局>

- ・コロナでいろいろ苦勞されていると思うが、去年も台風などがあり災害が増えているがそういったことに対して感じることはあるか。

### <委員>

- ・災害について、コロナもそうだが情報が錯綜することがある。市民としてどこにアクセスすればよいかわからない。神戸市のホームページは充実していると思うが、情報の見える化、通知が来るのがよいかかわからないが、災害時にアクセスしやすい情報、自分の家は危ないのか、どこへ避難すればよいかということが、一人一人の市民がわかるような、自分事として捉えられるようなものが必要。
- ・避難などについても、神戸市としてのスタンダードを保育園と共有していただくと同時に保護者、市民へもわかるようにしてほしい。

### <委員>

- ・感染症については専門ではないが、今回の経験を活かして、対応フローをわかりやすく示すことが必要だと思う。学生がコロナに感染したがどう対応すればよいかわから

なかった。神戸市で検索しても出てこなかった。保健所に連絡しないといけないのかといった必要な情報が手に入りにくかった。

- ・自然災害に関しては、地震を神戸は経験していて、その前に戦災も経験しているので、町としては延焼等のリスクは低い。最近の台風や水害に対しては、どうしようもないところもあるが、危険な場所に住まないというのが基本であるのでそれは徹底した方がよい。身近なところでは、学校は警報が出たら家に帰るが、学校はそれなりに安全なところに作っているはずなので、警報が出たタイミングで家に帰すのはどうなのか、どういう方針なのかと疑問に思う。

#### <委員>

- ・学校によるのではないかと。確かに大きくなれば心配はないが、低学年の時は仕事があって帰れないときに、家にいて何かあったらというのは不安であった。学童も閉まってしまって受け入れてもらえない。柔軟な対応があると良い。

#### <委員>

- ・危ないときに帰されても、途中で川に流されるなどのリスクがあるのではないかと。

#### <委員>

- ・情報をどこへ行けば取れるかというのは非常に大事である。コロナで休校になったときに学校のホームページに載せているというのが欲しい情報が見つけない。学校のホームページのテンプレートがあれば、情報を探しやすくなる。
- ・公立に行っているがホームページが昔ながらのシンプルな感じで、ほしい情報を見つけるのがとても難しい。緊急時にインターネットは情報源になるので、それがあれば便利になるのではないかと。

#### <事務局>

- ・中国ではおじいちゃん、おばあちゃんが子どもの面倒を見る。基本的に共働きで両親は忙しく、送り迎えなどはおじいちゃん、おばあちゃんがしていた。そういった役割分担がされていて、価値観として家族が何よりも第一という文化であった。

#### <委員>

- ・福井県では同居率が高く、それが直接の因果かどうかはわからないが学業の成績も良いという統計があったように思う。

#### <委員>

- ・神戸市も同居を推進していたと思うが、私も同居ではなく近居であり、親には親の生

活があるので、お互いに良い距離感であることは実感している。他の都市でもされているかもしれないが、メリット感を打ち出しても良いのではないか。

#### <委員>

- ・実家が西区で私は垂水区なので車で30分、丁度良い距離感だった。神戸の人が神戸に戻ってくるのに理由はないが、戻ってくる人が多い理由として、そういったモデルを発信するのは、若い世代にとってもシニア世代にとっても参考になるのではないか。
- ・半面、雇用のところで神戸に居たいけれども神戸に仕事がないから出なければいけないとか、実家は関東だがこっちに来ている人もいる。そういった人たちからは「続けていけるのは実家が近いから」という声も聞かれるので、いろんな例を共有するのはすごく大事。
- ・中国については、私も中国人の部下がいたが、おじいちゃんおばあちゃん4人が1人をみるような感じで手厚かった。違う国ではシッターさんが入るのが普通であるとか、ご飯もチンでOKという文化の国もあり、極論ではあるがこんなやり方でも子どもは育つというのがわかるだけで、そんなに頑張らなくてもいいと思えるので、そういったことを発信していくことも大事である。

#### <委員>

- ・災害・感染症から脱線してしまっているが、神戸の良さは神戸学区を守っていることである。西宮などは校区の高校に行かなくてはいけない。他所の校区に行くには上位10%に入らないといけないというようなルールがある。神戸は御三家があったため、そこを絶対的に守っていて教育には力が入っていて安心して公立高校に通わせることができる。今は塾にほとんどの人が通わせると思うが、公立高校がしっかり教育してくれれば、余計なお金と時間をかけて夜中勉強させなくてもいい。そういったところに神戸は力を入れているのでそこは魅力として発信して良いと思う。

#### <委員>

- ・外から来た人は学区のことなどは知らない。私は神戸の公立中学・高校から大学まで行ったが、公立高校に行かせるというのに違和感もない。あそこの高校やったらこれくらいの大学というのがある。外から来られる方はわからないと言っていたので、そういうところを積極的に発信するのはありかもしれないと思った。

#### <委員>

- ・昔と違っていろいろな高校がいろいろな特色をだされている。私の時のランクだとこの辺だが、今はここが人気あるというのもある。兵庫県立の高校になるので神戸市の

範疇を超えてしまうかもしれないが、その辺は言いようかとも思う。

#### <委員>

- ・関西は公立高校が強く公立で勉強している子がいる。私はいわゆる受験校みたいところで、養鶏所みたいに育ったが、地方の公立の子は野放しの地鶏のようでたくましく感じていてとても良い。それを期待して、神戸の公立中学から公立高校へ行かせようと思っているが、人間はでこぼこなのに、それを一つの枠にはめようとする評価システムが残念だと思う。数学はとてもできるのに国語は全然ダメとか、そのような子でものびのびと評価されるように、一人一人に沿った教育をしてほしい。でこぼこした人間を育てるのは大変だが、これからの社会は尖った人材を育てなくてはAIに仕事を取られてしまう。イノベティブな企業を立ち上げた人達はみんな尖っている。

#### <委員>

- ・スーパーサイエンス学科とか、高校ごとに特色のあるコースや、専科を作るのもありなのではないか。

#### <委員>

- ・内申点がない、一発受験の公立高校があってもいいのではないか。

#### <委員>

- ・3教科で入れるといった選択肢があってもよい。東京は私学が多く、通学圏が広いためいろんところが選べる。でこぼこした人でもいい教育を継続的に受けることができるが、神戸はでこぼこした人がそういうチャンスが奪われているように思う。公立ではそういった人の評価が低いのでくすぶってしまう。

#### <委員>

- ・センター試験でもある一定レベルまでは達しないと足切りになるようなことがあり、目指すところの前にそれがあるということもあるのでなかなか難しいことではある。

#### <委員>

- ・日本のこれまでうまくいっていた教育モデルが今後もうまくいくかはわからないという前提で、何をすべきか考えていかなければいけない時期である。

#### <委員>

- ・関連して、500スタートアップの取組は今後も継続しなくては意味がない。1年前に出た本に載っているユニコーン企業でこれからくると言われている企業でも、もはや

ダメになりつつあるところがある。数打ちや当たる世界なので、継続して尖っている企業を生み出し続けていく必要がある。そういう人達が集まる場所を作ってあげるとそこから何か生まれるものがあると思う。場所は西神中央がいいと思う。今は谷上をそうしようとしているが、土地がないので広がらない。広いところで交流できるようなところが作れるのであれば、そこに積極的に企業の誘致を進めるべき。

- ・神戸に来てここから何かやってやるといったような夢がない。ここに居られる方くらいの年齢だと住みやすくて良い町となるかもしれないが、若者がいざ働くとなった時には先が見えない。ここで働いて10年後自分がどうなるのかといったところが、大きくのし上がるようなところが生まれづらい環境のように思う。子どものころの教育から尖っている人がうまくそういったところに登っていくようなことができれば継続的な発展ができるのではないか。
- ・若い人がいると子育て支援の施策も集まってくる。東灘にそういった施設が多いのは、大阪寄りで若い方が多いからである。施設が多いから人が来るのか、人が来るから施設ができるのかでは、人が来るから施設ができるのだと思う。そのためには飯のタネが必要。同時並行であると思うので、片手落ちにならない施策を考えないといけない。

#### <委員>

- ・今空いている市営住宅や、空き家などを、企業が神戸に来た時に契約社宅として活用できるように用意すればいいのではないか。そうすると色んなところに若い人に住んでもらえる。人は変わるかもしれないが循環していくことが必要。人が住まなければ活性化しない。

#### <事務局>

- ・空き家の問題はどこの都市も抱えている。中小企業に聞いた話で、資金力が弱い社宅などを用意することが難しいので、空き地・空き家を活用できれば、メリットがあって雇用もしやすくなるという意見があった。

#### <委員>

- ・この5年は一番厳しい5年かもしれない。5年後には目に見えた変革が出てくる。投資をすれば潮目が変わると思うが、ただそれだけで20年は持たないと思う。代謝・サイクルが需要なので、その準備は必要である。
- ・将来的には阪神高速3号線を無くすくらいのビジョンを掲げておいて、5号湾岸線でなんとかするか、地下化する話もある。
- ・単発で終わらないように、生まれ変わっていくイメージを出していけると良い。そういう意味でも5年をどうするかというところではある。

### <委員>

- ・コロナの変化を積極的に取り入れていけるかどうかが重要。他の都市と差別化できる要素をだしていかないといけない。関東の方と話をすると、関東勤務でなくてもいいという職種がいろんな企業で出てきていると聞く。そうすると本当に住みたい町に住んで月に1度出社するといったことで、東京に住む必要がなくなるといった時に、どこに住むかという選択肢に入っているかどうかがこの5年で大きく変わってくるように思う。

### <委員>

- ・5か年計画であっても、適宜、修正・見直しをする仕組みを考えておかないといけない。潮目であるということは何が起こってもおかしくないということである。
- ・今、東京に出ている人は、東京でオリンピックがあるからというところで好景気だからという思惑の人も多いと思う。何より仕事がある。どんどんビルも建って建築関係の人が出稼ぎで、単身赴任で東京に出ることが地方では起こっている。そういったことが途切れた時に戻ってくる可能性がある。下手をするとオリンピックが来年できるかどうかわからない。そうなった時にまた一つ大きなターニングポイントが来る。その人たちが足を止めて自分たちを見つめなおしたときに神戸に魅力があるということを発信できるような準備、仕組みを整えて待ち構えておく必要がある。
- ・過去の5年はみんな東京に意識が向いている5年間だったと思うが、ここから先は全国各地の地方に意識が向くと思う。その時に神戸に魅力付けができるための仕組みとか、その時にパッと施策が打てる体制づくりを考えていただけると良い。

### <委員>

- ・前はロジックモデルを作り KPI を立ててやった。その全体の総括を示していただいたが、結果は目標に対して散々だが、これは目標が悪かったのか、施策が悪かったのか。KPI の設定が良かったのか、これが継続的にすべき施策の方向性なのかという、細かな総括をする予定はあるのか。

### <事務局>

- ・検証をじっくりやっているところである。2025 ビジョンを作るにあたって、簡単な総括でもお示ししないと議論が出発できないということで、今の状況をまとめたものをご説明したが、これから総括をしていく。

### <委員>

- ・KPI はいらないという気概を持ってやってもいいのではないかと。形骸化して皆さんが

本当にやらないといけないことの足かせになっている可能性もあると思っている。このために貴重なリソースを使って見当違いなことをやってはいないか。やるならやるで、検証をしっかりと、同じ枠組みで考えるのであれば到達可能なギリギリの目標を見極めて、取り組んでいく必要がある。こんなに KPI があるかどうかはわからない。

- ・走り出してみたら、全体の流れが来て離れていくというようなことなら策定作業そのものがどうなのかという話もありうる。やらないという選択肢はないと思うが。

### <事務局>

- ・前回の目標は、他都市でもこのようなものはなかったので、かなりアグレッシブな設定の仕方であったと思うが、目標達成できないのが明らかなので、今後は目標を立てるかどうかも含めて、検討する必要があると思っている。

### <委員>

- ・全国と比べて頑張った方なのか。出生数の推移などは日本全国がダウントレンドなのでそこに比べると頑張っている方なのか。目標自体は置いておいてそういったところを見ていただかないと、これが良いのか悪いのかの判定のしようがないので、きちんと分析していただいて、可能であればシェアしていただきたい。
- ・神戸市の人と働いていて思うのは、すごく戦いにくそうに戦っている。この資料も非常にきれいな資料だが、全方位攻撃のようであり、他の都市で作っても似たようなものになる。神戸の魅力であり最大の弱点は、何でもあるがゆえに、何もできないという点だと思う。
- ・色んな事を考慮しないとイケないというのが、市役所の方の事情だということが分かった上で、それでもあえてこれだけは神戸だというもの、ここだけは負けないという部分が必要である。全ての都市がこれをやろうとしているのでどこで差別化を図るかということだと思っている。
- ・色んなステークホルダーがいて難しいのはわかるが、それでも敢えてギリ貧にならないためにはどうするかということが必要。

### <事務局>

- ・ある先生からのアドバイスで、全方位的にいろいろ事業はやっていかないといけないが、その中でプロモーションするには1つ2つを、抽出して全面的に押し出してあげばどうかということを言われたので、まさにそういうことかなと思う。
- ・本日の皆様のご意見を伺って、お子様、ご家族が幸せになるようなまちを目指されているというのがひしひしと感じた。次回引き続きご議論いただきたい。

以上